

環境の時代を考える

環境総合研究所 所長 高井 明徳

環境問題の解決が難しいところは、被害があまり実感できない、物質的に快適な生活の抑制が難しい、原因と結果が明瞭でない、被害者が加害者でもある点などが上げられる。公害問題が大きな社会問題になった時は原因を除去するための施策で問題はある程度解消されたが、現在の環境問題は問題が複雑化し、また問題の根元が人間の生活・社会および人間自身にあり、解決は容易ではない。しかし、対策を着実に進めないと、気がつけば手後れ状態ということになりかねない。

環境問題の解決へ向けてどのように進むべきか。環境基本法には、国・地方公共団体・事業者・市民に対する責務（第6-9条）がうたわれている。国・地方公共団体・事業者の責任は当然であるが、市民にも市民としての責任がある。私たちにできること、すべきこととして、身近な問題から解決しようと言われて。しかし、簡単そうだが中々できない。環境問題の深刻さは意識的にはかなり理解されるようになってきたが、行動には中々結びついていないことがよく指摘されている。

最近私たちが行った女子短大生対象のゴミと環境に関する調査の結果においても似た傾向が示されたが、いくつか興味深い点も示唆された。この4年間において環境問題に対する関心や意識は高まっている傾向が示されたが、環境問題解消へ向けての行動における変化は認められなかった。環境問題解消に関わる日常行動について、高い割合を示したものはマナー的なもので、生活の利便性や快適性を損なうものについては割合が低かった。意識の高まりは環境問題に関する情報量の増加によるもので真の意識改革はそれ程進んでいないように思われた。意識と行動の関係を見ると、積極的な行動は、単に関心があり意識が高いだけでなく、上記の生活の利便性や快適性を損なうような行動やリサイクルへの関わりを持っている人など環境問題解消へ向けて”努力する姿勢”がある人に認められた。全体的に意識の高まりに比べ積極的な環境問題解消への活動を行っている人の割合は少なく、意識の高まりが行動を伴うまでには何か大きなステップが必要ではないかと考えられた。そのステップとして日常における継続的体験が考えられる。家庭ではゴミ問題に直面しているが、日々のゴミ処理はほとんど母親任せの状況になっていることも示された。そこで、家庭におけるゴミ処理が一つの環境教育の場として家族全員が一致協力してゴミ処理をする状況が生み出されれば、行動を伴う意識の向上が進み環境にやさしい社会実現の基礎になるのではと考えている。

環境フェスタ開催

環境保全と環境にやさしいライフスタイルの確立、および社会福祉に関わる啓発を目的に大阪信愛女学院短期大学人間環境学科・同環境総合研究所主催、大阪市鶴見区・大阪市城東区後援のもと、7月27日（土）、鶴見キャンパスにて第1回エコフェスタが催された。環境や福祉に関わる14団体と本学学生有志の参加を得て、講演会・ビデオ上映・活動紹介の展示・物品販売・クラフトなどの多彩な催しが行われた。

催し内容として、地球環境問題と私たちの日常生活の在り方の繋がりが実感できるもの、すなわち地球環境問題解決へのスローガン “Think globally, act locally” という考え方がさまざまな試みの中で実行されており、そしてそれは私たちにも実行可能であることを実感してもらえようことを考えた。

「緑のサヘル」代表の高橋一馬氏による「チャドにおける環境保全活動と住民の日常生活」、インタープリテーション・ネットワーク・ジャパン研究員の本多孝氏による「環境保全と自然体験—合衆国ヨセミテ・ナショナルパークのインタープリテーション視察から—」、 「大阪市環境学習リーダー会」による「環境家計簿講座」の三つの講演・講座、フェアトレードやスローフードの運動紹介として「ネバリ・バザーロ」「サマサマ」の展示・物品販売と「農民組合大阪府連合会大阪産直センター」による有機農産物の直販、さらには「日本国際ワークキャンプセンター（NICE）」や「飯盛・北条の里山を保全する会」「NPO法人日本ウミガメ協議会」の活動紹介の展示、「農文協」による環境関連書籍の展示販売、「ガールスカウト大阪府第48団」による環境にやさしいアウトドア料理教室、「すみれフレンドワーク」「作業所みらいかん」による手作り商品のバザーと、いずれも意欲的な催しが行われた。もちろん本学学生による卒業研究ゼミの研究紹介の展示や、ハーブ石鹸作り、模擬店、教員による研究成果展示、エコたわし講習会、手作りの竹炭や観葉植物の販売、それにエコ商品の展示なども行われた。

OSIES News 人と環境 No.2(2003)

大阪信愛環境総合研究所(OSIES)発行(2003年4月)

大阪信愛女学院短期大学鶴見学舎内(〒538-0053 大阪市鶴見区鶴見6-2-28)
TEL06-6180-1041,FAX06-6180-1045,E-mailosies@osaka-shinai.ac.jp

Web page:<http://www.osaka-shinai.ac.jp/college/osies/>

Contents

- P1 環境を考える 環境フェスタ
- P2 2002年度環境総研講座(第1~4回)
- P3 ウミガメの保護
- P4 淀川水系イタセンバラ研究会
環境総研講座の案内